

核ゴミの地層処分問題

(高レベル放射性廃棄物ガラス固化体＋TRU廃棄物)

1. 「トイレなきマンション」

原発を始めた時から分かっていたことを先送り

核のゴミ＝使用済み核燃料＋放射能汚染ゴミ（高レベル、TRU、廃ウラン、L1、L2、L3）

核燃料サイクルで使用済み核燃料問題は解決というデマ ⇒ サイクルが破綻・もんじゅ廃炉

小泉純一郎元首相「産廃業者は産廃場を確保しないと事業認可が出ない、原発は何故そうじゃない？」

2. NUMO（原子力発電環境整備機構）

NUCLEAR WASTE MANAGEMENT ORGANIZATION

WASTEが消えて、「環境」という無関係な言葉が入る

言葉を言い換えてゴマカス原子カムラ用語

「事故」の代わりに「事象」、「トラブル」の代わりに「過渡現象」

「老朽化」は「高経年化」に、「汚染水」は「滞留水」に言い換えられています。

科学的特性マップ ⇒ 非科学的特性マップ（根拠なし：全ての活断層の場所はわかっていない）

3. 高レベル放射性廃棄物ガラス固化体と（低レベル）TRU廃棄物

(1) 再処理工場から出る高レベル放射性廃液をガラスに溶かし込んで固めた（そばに立つと即死）

最近、ウランとプルトニウムの回収率（98%）が想定より悪いことが判明 ⇒ 環境に漏れた時の危険性が大、危険性も長期化、核ゴミの輸送にも危険性あり（自然災害とテロリズムと戦争）

(2) TRU廃棄物（トランスウランの略称：超ウラン元素）＝放射性ヨウ素129（半減期1560万年）などのやっかいな有害核種を多く含んでいる（低レベルという表現がおかしい）

(3) 放射能が自然界に存在する程度になるまでに約10万年かかる（あやしい＝もっとかかる）

4. 核ゴミ処分場 決定までの手順

文献調査 ⇒ 概要調査 ⇒ 精密調査 の3段階（段階を進むのに地元合意は法的には不必要）

文献調査：10億円／年 × 2年 20億円＝何のための「文献調査」なのか？

概要調査：20億円／年 × 4年 70億円

精密調査：交付金未定 14年 ?????

5. 核ごみ処分場 立候補（1）：高知県東洋町

町長の独断で手をあげ、住民の反対で、紆余曲折ののち、頓挫 ×

6. 核ごみ処分場 立候補（2）：寿都町・神恵内村がそれぞれ応募＝手続きがデタラメ

(1) 両町村とも、地域住民の意向を無視、短期間で少人数の地方政治関係者だけで決める

寿都町＝町長と数名の町議会賛成議員で決め、説明会などもいい加減、短期間で決定

神恵内＝商工会から村議会へ提案 村議会決定を経て経産省から声掛け、村長がそれに応じる

(2) 北海道条例（核ゴミ持ち込み禁止）に違反、鈴木直道北海道知事が翻意促すも ×

(3) 事故が起きた場合の影響度合いを考えると、2町村の独断では決められない

(4) 科学的特性マップでは、神恵内村は95%が不適地、寿都町も大半が活断層だらけ

基準項目：火山、活断層、隆起・浸食、軟弱地盤、地温、地下資源、海岸に近いほどいい（運搬）

(5) 寿都町では第2段階に進む場合に住民投票をするという条例が可決成立（2021/3）

7. 寿都町・神恵内村を核ゴミ最終処分場にする危険性

<1>地層

- (1) 積丹半島西方断層という活断層＝西から東へ地中深く斜めに地層が切れている
⇒ 地下300m程度の処分場では「活断層の真上」につくるようなもの
- (2) 寿都町を含め、その周辺も活断層だらけ
- (3) ユーラシア・プレートと北米プレートの交叉点
- (4) 1993年北海道南西沖地震（奥尻島）＝M7.8、震度6強、津波3.2m
- (5) 泊原発のすぐそば

<2>火山

羊蹄山、有珠山、海底火山の可能性 火砕流が襲ったらアウト

<3>核ゴミ容器

「ガラス固化体」を金属キャスク＋粘土などで密封

- (1) 耐久性は長くて1000年程度（これも怪しい）⇒ その後は「野となれ山となれ」
- (2) 地下深くだと、何かあったら、取り出せない、対応できない

<4>TRU廃棄物

100年ちょっとで環境に出てくる想定をしている（10万年の永続的密封は不可能）

（放射性ヨウ素129や水溶性炭素14など：驚き！ 無責任）

廃棄物に含まれる放射性物質の詳細非公開（核種、半減期、崩壊系列、毒性、化学的生物学特性など）

<5>最大の難関＝地下水

まずもって、その挙動がわからない、わかっても、コントロールできない（例：福島第1原発）

破損したキャスクに地下水が触れれば、たちまち道南の地下は深刻な放射能汚染地帯

飲料水×、海に湧水する＝漁業× 土地が隆起すると地表に出てくる

<6>核のゴミ捨て場に「地域振興」などありえない

処分場受入を決めれば人口減少は加速（みんないなくなる）

北海道の全市町村が迷惑・取り返しのつかない被害 ⇒ 2町村だけでは決められない

今ある地域資源を生かしながら地域振興は可能＝政策支援がダメ＝自公政治の稚拙さの問題

（ドイツ）最終処分場「アッセ」：岩塩に亀裂＝地下水侵入で大騒動

世界で最終処分場の有力地はフィンランド・オンカロだけ＝ただし現在は最終審査中

8. 高レベル放射性廃棄物の処分について（日本学術会議 2012年9月11日）

日本学術会議が科学技術が進むまでの猶予期間として数十～数百年間、取り出し可能な形で保管する「暫定保管」を提案、（その後）高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言－国民的合意形成に向けた暫定保管（日本学術会議 2015年4月24日）で暫定期間を50年とする提案他へ（少し後退）

9. 最後に

イソップ童話「アリとキリギリス」

40年間発電して、その後始末（核ごみ等）は10年以上＝パカパカしくも愚か極まりなし

以上